

令和元年度 前期アンケートより

- 1 「先生はわかりやすい授業に努めている」は、生徒保護者ともに高い評価を得ている。これまでの取り組みの成果であろう。今後もさらに継続して、生徒の実態に合わせ、UDの視点を持った指導を進めていきます。
- 2 「どの先生も同じ方針で生徒指導ができています」は、低い評価である。学校では、意思統一をしているつもりだが、そうは捉えられていない。このことを真摯に受け止め、学年や学校で共通認識する機会を増やし、より確実に同一歩調で生徒に当たっていきます。
- 3 「生徒は学校や学級で好ましい友人関係を持っている」と「生徒は社会のルールや学校の規則を守っている」は、高評価である。今後ますます、家庭と学校とが連携を密にし、よりアンテナを高くして生徒たちの変化に気づけるようなシステムを作ります。
- 4 「家族でPCやスマートフォンの使い方・ルールを決めている」と「家庭でSNSなど使用状況を把握し、時間を守って正しく利用している」が、低評価である。全国的にも大きな課題であるSNS。そこで、生徒会が中心となって作成しているSNS使用のルールをさらに意識させ、徹底させていくことで、生徒自身が守ろうとする力をつけていきます。他方、PTAと協力しながら、家庭で生徒のSNS等の使用状況の把握に努めていただけるよう啓発を続けていきます。
- 5 「困ったり悩んだりすることがある」の割合が高く、その際の「相談する相手がいるか」では、1割がないようである。教育相談の回数を増やしたり、デリーノートでの点検による早期発見に努めます。
- 6 「生徒が夢中になるものがある」では、ほとんどの生徒が「ある」と回答しているが、何に夢中かが把握できない。ゲームやSNSに夢中になっているかもしれないの観点から、生徒の実態把握に努めたい。

具体的方策

- ・校内連携を密にし、校内推進を常に点検しながら、指導に当たっていく。さらに、同推進の様子を積極的に発信し、学校外にいち早く届ける。
- ・子どもと接する機会を充実させ、僅かな変化に気づく感覚を身につける。
- ・SNSの使用について、保護者と一緒に研修していく。
- ・学校や学級が生徒にとって居場所となるように楽しい学級・学校創りに努める。